

新 医 協

発行所 新日本医師協会
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-10-2 日高ビル 4 F
TEL 03-3988-8387 FAX 03-3983-6165
振替 00170-9-180753
http://shinikyo.com/
Eメール: honbu@shinikyo.com
月 2 回 5・20日発行 年間購読料 5,000円

本協会は、国民の生命と健康を守り、国民本位の医学・保健・医療・福祉の進歩をめざす。

要請書

新型コロナウイルス感染症に関して 人権に配慮した対応の強化を要請する

2020年2月10日
新医協（新日本医師協会）会長 今田隆一

中国武漢から発した新型コロナウイルス感染症は急激な感染拡大を続けており、国民の健康を守る上で早急な対策が求められています。

政府は本症を「指定感染症」および「検疫感染症」とし、感染の可能性を持つ人々に検査の実施や陽性者の入院、発症確認までの隔離を強制する権限、及び流行地からの入国を制限する措置もとれることとなりました。

これらは本来、検査受け入れの可否や移動・居住の自由を行使する国民の権利を感染予防の必要から一時的に制限するものです。

しかし、ホテルや船舶個室から一步も出ない2週間は、個々人の衣食住や人との交流という日常から遮断され、画一的な衣食住と社会からの隔絶が強いられることとなります。それは身体にはもちろんのこと、精神的にも計り知れないストレスです。

一方、かつて公衆衛生の拠点であった保健所は、統廃合により住民の身近な存在ではなくなり、地域での健康を守る機能を果たしていません。そのような中、感染症に関する情報が錯そうし人々の不安が強まり、必要な医療機関でマスクや消毒薬などが入手できない事態も生まれています。

このような状況を踏まえ、新医協は、『国民の生命と健康を守り、国民本位の医学・保健・医療・福祉の進歩をめざす』ことを掲げる学術団体として、以下のとおり要請します。

【要請事項】

1. 政府や自治体、保健・医療機関は特定国からの入国制限や感染者との接触者への隔離を権限として行使するだけでなく、対象者の心身の健康管理のために必要な最大限の対応を要請します。
 - (1) 必要な医療的ケアの保障
 - (2) こころのケアスタッフを派遣し聴き取り支援の実施
 - (3) 常用薬の確保と安定供給の保障
 - (4) 隔離期間に生じた不利益に対する可及的な対応
2. 過剰な不安を広げないために、新型コロナウイルスに関する正しい知識と情報を人々に分かりやすく伝えることと、患者やその接触者、特定国人への差別や排除を許さない毅然とした施策を要請します。また、隔離されている人々への、迅速かつ確実な情報提供を要請します。
3. 必要なマスクや消毒薬の供給と確保を要請します。
4. 感染症対策の専門家・施設の充実を要請します。
 - (1) 迅速な検査キットならびに効果的な予防・治療薬の開発
 - (2) 保健所や研究機関の充実
 - (3) 感染症に対応できる医療機関の体制強化

新医協では緊急理事会を開き、要請書を提出することを確認し、2月10日に厚生労働省に対して送付しました。

ひとこと

聴覚過敏とギュー抱っこ（加圧抱っこ）。ふうちゃん（4歳）は子どもの泣き声を極端に嫌う。他の子が泣くと悲しい表情になり、泣き始める。そんな時ギューと抱っこすると泣き声小さくなり、好きな歌を耳元で歌うと表情が和らぐ。入園から半年以上経っても、園でおしっこを一度もしない。家に帰ると、ながーいおしっこをす。最近、午睡明けにトイレに連れていくと、おしっこが出るようになった。排尿の前に両耳に手を当てるしぐさをする。そういう癖かな？と思っていたがそうではなかった。その日、午睡からの目覚めが悪く、不機嫌なふうちゃんは怒っていた。トイレに連れていってもおしっこしないのでおやつ後、再び挑戦。私がふうちゃんの手を当てる時、再びそれを要求してくる。しばらく耳に手を当てていると、液体のしたたり落ちる音が聞こえてきた。聴覚過敏は耳からの刺激でカラダがゆるまなことに気づいた。排尿は弛緩と緊張の絶妙なバランスで、排泄は快感そのものだ。

耳は音を聞いてしまう。その音で緊張する聴覚過敏。私たちのカラダは弛緩と緊張を適度に繰り返しながら活動しているが、聴覚過敏の人はいつどこでイヤな音が聞こえてくるか予測がつかない。その上、周囲の人たちになかなか理解してもらえない辛さがある。

(A・M)

2018年7月からおこなっている新医協「HPVワクチン検討会」も8回を重ねました。HPVワクチン接種を推進する論拠の一つとされている「名古屋スタディ」について、江戸川大学教授の隈本邦彦さんに解説していただきました。

HPVワクチン名古屋調査 のほんとうの意味は

HPVワクチン推進派の人たちは「ワクチンの安全性は査読付きの論文で証明されている」と、名古屋市大・鈴木貞夫教授の「名古屋スタディ」を持ち出してくることが多い。確かに論文のタイトルを直訳すると「HPVワクチンと、ワクチン接種後の日本の若い女性たちの症状との間には関係がない」名古屋スタディの結果。極めて断定的でわかりやすいことから、十分に中身を読まずにそれを信じている人が多いらしい。

疫学の世界では、有名な「フラミンガムスタディ」や「久山町スタディ」などの大規模コホート研究が知られている。そんな流れで「名古屋スタディ」と聞けば、そういうしつかりしたコホート研究なのかなと思う人もいよう。しかしそうではない。そもそも世の中に「名古屋スタディ」なるものは存在せず、存在するのは「名古屋調査」だけである。名古屋市は、税金で費用負担してまでワクチンを推奨した責任として、接種後の市民にどんな症状が起きているのか2015年に「名古屋調査」を実施した。調査票の冒頭には「副反応を訴える方々から実態調査を求める切実な声が寄せられています。本市といたしましては、予防接種を実施した主体として、このような声を真摯に受け止め、まずは実

態を把握する必要があると考え、調査を実施したものです」と、あくまで実態調査なのだと明記されている。ただ、それまでいくつかの自治体で行われた同様の調査で、接種後に症状を訴える人が多数いても「そんなものは思春期の女の子に多い症状だ」と無視されることが多かったため、念のため接種しなかった人にも同じ調査票を送ってほしいと被害者側からお願ひした経緯がある。

調査対象期間の違いと健康状態の偏り

調査は、名古屋市の15〜21歳の女性(約7万人)に調査票を送り回答を郵送してもらおうという方法で行われ約3万人が回答した。

被害実態の調査なので、接種者には「接種後に」どんな症状があったかを聞いた。でも接種をしていない人にはそのタイミングがない。そこで「12歳の頃から今までに起きた症状」を聞くことにした。結果的に接種者と非接種者で調査対象期間が異なっている。

また、ワクチンを接種しなかった人には、もともと持病があるなど、接種した人に比べて健康状態が悪い人が多いという偏り(healthy vaccine bias)があることが知られている。単純に症状の訴え

を比較すると非接種群に多くなつてしまい、ワクチンによる害反応が検出しにくくなってしまうのである。接種率が100%に近づくにつれその偏りは大きくなる。名古屋調査では年齢ごとに接種率が大きく違うため適切な補正は不可能に近い。

つまり、この調査は、接種と症状の因果関係をみるためにデザインされたものではなく、むしろそれにはまったく適さない観察研究(しかも郵便アンケート)なので、「名古屋スタディ」などと、それらしい名前を付けて年齢補正をかけ因果関係に言及してはいけないものだったのだ。疫学の専門家である鈴木氏ならそれは百も承知のはずである。ところが論文のタイトルは「関係ない」と断定的、本文中には「示唆される」としか書いていないのに、である。

この論文が掲載された雑誌は、世界的に定評のある疫学雑誌ではなく、2015年に創刊されたばかりのPapillomavirus Research誌だった。編集長と編集委員の多くがHPVワクチン開発メンバーやメーカーと利益相反がある人物という雑誌である。ある意味わかりやすい構図だ。

これが「ワクチンの安全性は査読付きの論文で証明されている」と誤って伝えられているフェイクニュースの根拠なのである。

自由記述欄にこそ見える真実

名古屋調査のほんとうの意味は、実は自由記述欄にあった。調査では典型的な

第9回新医協HPVワクチン検討会

新医協は1960年代のポリオパンデミックに際し、海外論文を渉猟しその知見をいち早く国民に知らせ、ワクチン導入による流行阻止と接種後副反応保障制度立ち上げに奮闘しました。

その伝統に添って2018年7月にHPVワクチン検討会を立ち上げ、これまで医学・医療・薬学等の専門領域を担う会員がつどい、最新知見を読み解いてきました。さらには、接種後副反応発症者やその家族に参加を呼びかけ、実際の症状を学び、副反応症例を担当した第一線の医師を招いて検討を加え、本ワクチンの特性と深刻な副反応を明らかにしてきました。

来たる第9回では、上記掲載の調査を読み解きます。どなたも参加出来ます。日時：2月21日(金) 18:30〜21:00
会場：新医協本部事務局
演題：子宮頸がんワクチン接種者調査の自由記述欄は訴える

自由記述欄は訴える
― 推進派が論拠とする「名古屋スタディ」の倫理的な破綻―
話題提供者：隈本邦彦(江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授/元NHK記者/薬害オンブズパースン会議メンバー)

第9回新医協伝統医学研究会
日時：2月28日(金) 18:30〜
会場：新医協本部事務局
話題提供者：和田浄史

(川崎協同病院 外科部長)
演題：地域包括ケアとチームケアアプローチ―各職種のプロフェッショナルリズムを引き出す―
参加費無料

(2面からつづき)

24の症状を聞いているが、そのどれにも当てはまらない多様な症状がある場合、自由に書いてもらう欄が設けられていた。そこを読むと、調査の本来の目的である被害実態の一端が明らかになってくる。

非接種者の方の回答には「発達障害がある」等、既にわかっている病気であるという記述が多かったが、接種者のほうにはワクチン薬害訴訟の原告に共通する神経症状、記憶障害、運動障害などを含む多様な症状が目立つ。

「過呼吸、首、肩から腕のけいれん、倒れることが多くなる、CRPS（複合性局所疼痛症候群）」と診断された。

接種前後から、朝起きる事ができなくなり、病院を何度か受診した結果、起立性調節障害（POTS）と判明。

中学生の頃位から毎朝起きられず、いつもギリギリまで寝てます。学校がお休みの日は、夕方位まで1日中寝ている時があります。こんな生活が何年も続いているので就職など将来が心配でたまりません。

小さい頃から勉強がよくでき成績がよかったです。サーバックス接種後、頭痛になることが多く、成績が落ちた。注射を打った時すごく痛くて気が遠くなった。授業中手がふるえ、学校もやめる事になり、現在、生活もおかしく困っています。

物忘れの症状。その他頭痛がひどく救急車で運ばれました。友人や親に若年性認知症ではないかといわれることが多くなったが受診してはいない。大人になつてからどうなるのか心配。

親の顔もわからず記憶がすべてなくなり、過呼吸が1日に何度もあった。自分ひとりでは立つこともできず、自分が誰かもわからず、又、幼児のような反応をしたり、2ヶ月の入院を経て、記憶が継続していない。

回答者数も、非接種者の85件に対して、接種者の415件と圧倒的に接種者の方が多い。また、多くの薬害被害者が医師たちから受けている仕打ちと共通する記述もあった。

「普段と違う娘の様子を見てワクチンを接種した副作用ではないかと申し出をしました。大学病院の医師からは、「ありえない」「娘さんの気持ちを考えて」と叱られました。その後は、その病院は受診していません。

色々の症状がでて産婦人科の先生に相談したら予防接種のせいではないと言われました。予防接種をした病院の先生は精神科に行きなさいと言いました。

自由記述の一行一行に、接種後の症状に苦しむ親娘の「魂の叫び」のようなものが感じられないだろうか。名古屋調査は、本来、こうした事実をあぶりだすために行われたのである。これをまとめて安易な統計処理などしてはいけないということが、医師ならわかるはずだ。

(江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 教授 隈本邦彦)

*コホート研究…ある要因にさらされた集団とさらされていない集団を追跡し、要因の有無が、研究対象の病気の発生または予防に關係しているかを調査する方法

第54回新医協鍼灸部会総会を開催

表記の会は、1月19日(日)、大森・おおとり会館にて開催されました。部会は常任役員、役員、世話人等それぞれの担当に別れ組織を支えています。初の総会参加者も含め14名が出席、40名からの委任を受けました。本部事務局より原信雄氏を来賓として招きました。

松本武士事務局長より開会挨拶、手塚幸忠会長、原信雄氏の挨拶と続きしました。年明けより米国大統領の指示による米軍のイラン最高幹部殺害を発端に、中東での戦争の不安がありました。そこで原氏の発言は「新年早々、戦争に繋がりがかねない深刻な状況です。アメリカでは残っている弾を使いきりたい、軍事産業を儲けさせたい」という思惑があります」と、新医協らしい視点でした。次に事務局長より情勢の特徴と部会の課題について、「2019年1月より、あはきの療養費に受療委任制度が開始された。しかし、現状では課題が多く残る制度である。たとえば保険者は本制度への参加が

岡山支部ニュース

2月例会

日時…2月22日(土) 15:30
会場…湯原内科医院
話題提供者…金谷純子(岡山協立病院看護部/相談員)

テーマ…相談室から見えてくるもの
格差と貧困が拡大し、消費税増税、社会保障の改悪、さらに、全世代型社会保障改悪が進められる中での相談内容は？

強制ではないことから、全保険者が参加をしていない」と、さらに鍼灸療法の実療率の回復や今後の活動課題についての説明がありました。つづいて、辻恭子氏が議長として選出され、各部の昨年度の活動報告と今年度方針がだされました。毎月の臨床講座を中心に各部門は意欲的に活動した報告、今年度方針では更に充実したものにするために討論を重ねてきました。講座では年々受講生の傾向も変化中、カリキュラムの内容を変化させ、様々な工夫をしています。さらに今年度は山梨での夏合宿を止めて、都内か東京近郊で夏季セミナーを行なう、古典研究会では学会の発表につなげられるようにする、例会での新企画、名簿の取組みなど色々と新しい方針が提案されました。また部外への宣伝活動としてインターネット・電子媒体が主流になりつつあることから、HPの更新を行なうことも討論されました。その後、会計担当の武井百代部長より会計報告と予算案が示され、新役員も選出され閉会の辞となりました。(鍼灸師 松本和美)

新医協新春の集い
過去の病気？水俣病・カネミ油症

水俣病・カネミ油症にかかわる誤った認定基準の問題と特にカネミ油症では、直接汚染を受けていない次世代・次々世代の被害の実態を報告されます。

日時…3月13日(金) 18:30~21:00
会場…としま区民センター 504

「池袋駅 東口」より徒歩7分
演者…藤野 紘(菊陽病院 医師)
参加費…会員500円/一般1000円

カネミ油症患者の 次世代、次々世代 の健康調査

Ⅲ. 名古屋調査

2012年の救済法で認定された長崎県五島の奈留町より名古屋市などに転出したきょうだいの姉(1950年生、65歳)、弟(1954年生、61歳)とそれぞれの子供(次世代：姉の長女、次女、長男、三女、42歳、32歳、弟の長男、次男、24歳、22歳)計6人、姉の孫3人(次女の子、次々世代：長男、次男、長女、19歳、6歳)の未認定の計9人を2015年、18年に調査した(図1)。なお、弟の妻、すなわち2人の子供の母親(1954年生、61歳)も奈留町の出身で未認定であるが、私たちはカネミ油症と診断した。

弟の長男を除く継世代の8人に対し歯科レントゲン撮影などを実施した。ここでは、歯科診断において特徴的であった永久歯の先天性欠如と継世代の全員に確認された鼻血についてのみ述べる。

1) 永久歯の先天性欠如

姉の次世代にあたる次女には両上第2大臼歯の先天性欠如が、三女にも左下側切歯先天性欠如が認められた。また、弟の子供では30週の早産で、1504gの低体重児で生まれた次男には両下第2大臼歯に加え、右下中切歯・左下第2小臼歯の先天性欠如が認められた(図2)。次

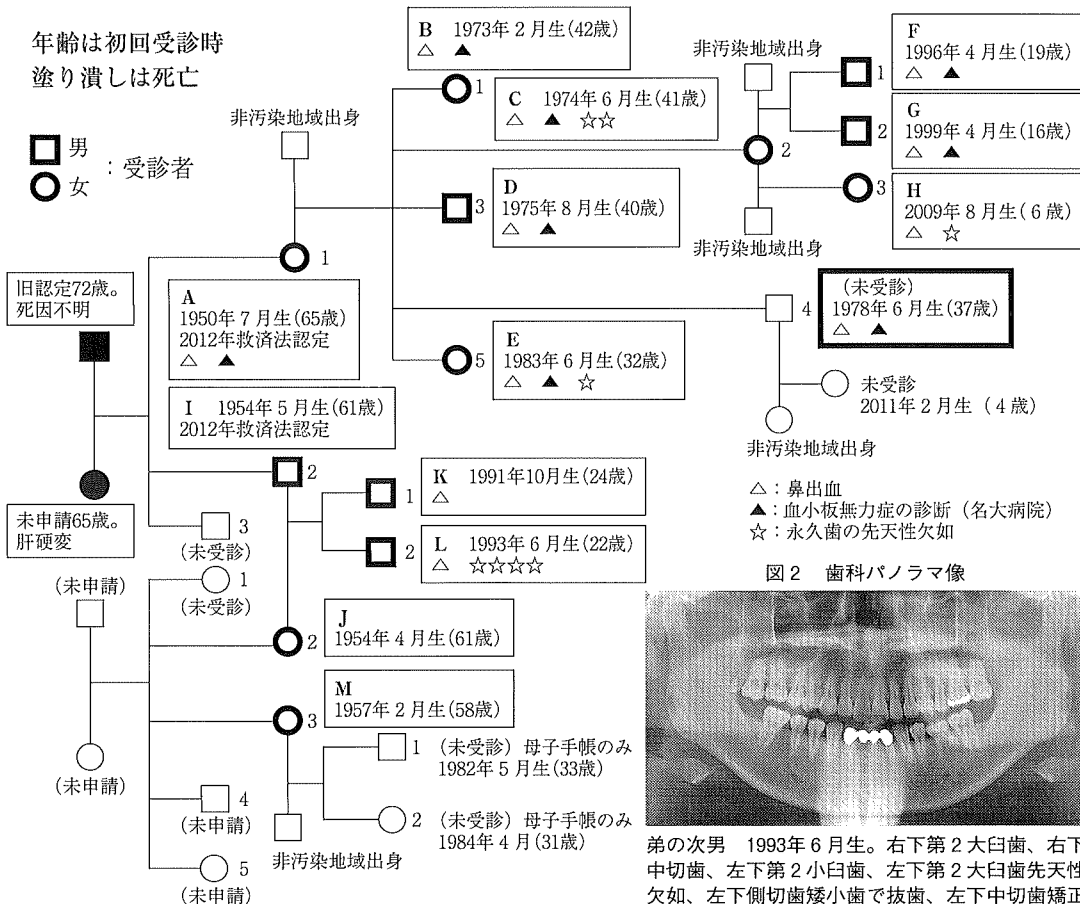
々世代でも他の症状とともに長女の右下側切歯先天性欠如が認められた(図1)。日本小児歯科学術委員会は歯科用エックス線写真を使用した永久歯先天欠如を全国7大学28施設での15,544人を対象とし報告している(日本小児歯科学術委員会・日本人小児の永久歯先天性欠如に関する疫学調査、小児歯科学雑誌、48, p. 29-39, 2010)。それによると第三大臼歯を除く永久歯の先天性欠如者の発現頻度は10.09%である。欠如本数別では1歯欠如：5.22%、2歯欠如：2.93%、3歯欠如：0.57%、4歯欠如：0.50%である。歯種別では次女の女子上第2大臼歯(右0.55%、左0.52%)、三女の女子下側切歯(1.74%)、弟の次男の男子下第2大臼歯(右0.07%、左0.11%)、右下中切歯(0.75%)、左下第2小臼歯(3.12%)、次々世代の女子右下側切歯(2.54%)である。

一般的に少ない頻度のパターンが同一家系の次世代、次々世代8人中4人(50%)に、欠如本数、歯種別に極めて高率に認められたことはきわめて特異的である。油症診断基準には「小児期の被曝での歯牙異常(永久歯の萌出遅延)」が参考所見とされている。カネミ油症(ダイオキシンの第1世代に及ぼしたこの影響が次世代あるいは次々世代にも及ぼすか否かの研究が重要である。

2) 鼻血

加えて、今回調査した姉(母親)と今回未受診者の1人を含む子供の5人全員と孫の3人全員に幼少時の鼻血があった。さらに弟の長男にも小中学生時代に鼻出血がひどかった。姉の一家は孫の女性1人を除いて、今回未受診の次男を含めて

図1 ジェノグラム 受診者と結果



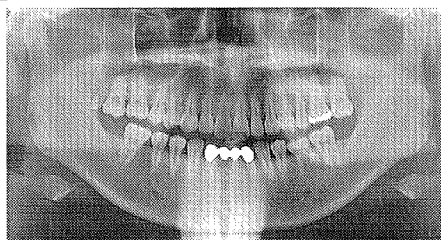
名古屋大学病院で血小板無力症と診断されているとのことである。また、子供たちの父親は他県出身者であり、2019年8月名古屋大学病院で「血小板凝集能に異常はない」といわれている。

血小板無力症は常染色体潜性遺伝の遺

伝性疾患であり、一家は明らかに異常な出現パターンを示している。血小板無力症など遺伝性疾患の症状発現に及ぼすカネミ油症(ダイオキシンの)の影響を明らかにすることが重要である。

(菊陽病院 藤野 紘)

図2 歯科パノラマ像



弟の次男 1993年6月生。右下第2大臼歯、右下中切歯、左下第2小臼歯、左下第2大臼歯先天性欠如、左下側切歯矮小歯で抜歯、左下中切歯矯正